

氏名 旗谷 亮太

法科大学院等の在籍年次 2

はしがき

神戸大学法科大学院（以下「神大ロー」）の海外エクスターンシップ¹は、海を渡って3週間程度の比較的長期間実務に触れることのできる大変貴重な機会です。その一方で、学生からの認知度は必ずしも高くないように感じます。また、過去の参加者との伝手がない場合、経験者のレポートがほぼ唯一の情報源になると思います（私もそうでした）。そこで、私のエクスターン体験をできるだけ細やかに記載しました。準備のお役に立てば幸いです。

目次

第1 受入事務所と滞在期間

第2 事務所の業務・構成・勤務条件及びエクスターンの内容等

1. 事務所概要
 - (1) ～ (4) 細目
2. エクスターンの内容
 - (1) 業務の進行
 - (2) タスクの内容

第3 宿舍及びその他の生活環境について

第4 出発に向けた準備等について

1. 参加の契機
2. 選考
 - (1) 時系列
 - (2) インタビュー
3. 準備
 - (1) 時系列
 - (2) 物品
4. 語学
 - (1) 総論

¹ 2022年までは「インターン」と呼称していたそう（神戸大学法科大学院「海外エクスターンシップ」(<http://www.law.kobe-u.ac.jp/LawSchool/about/feature/global/externship.html#internship>)）ですが、本レポートでは「エクスターン」に統一します。

(2) 意思伝達

第5 エクスターンに要した費用

1. 総論
2. 支出概要
 - (1) 総費用
 - (2) 項目別費用
3. 支出細目
 - (1) ～ (9) 細目

第6 これからエクスターンに参加される方へのアドバイス等

1. 総論
2. 落とし物
3. ドア
4. 体調
 - (1) 体調管理
 - (2) 保険手続
5. 宿泊
 - (1) 宿泊地
 - (2) 宿泊施設
6. 厳しいルール
7. 直行便の推奨

第7 エクスターンの有用性等に関する評価及び感想

1. 概要
2. 弁護士業務の体感
 - (1) サマークラークとの比較
 - (2) エクスターン業務の感想等
3. 人間関係
 - (1) 所内
 - (2) 所外
4. 学習
 - (1) 国外法
 - (2) 国内法
 - (3) 司法試験科目
5. 生活実感

- (1) 総論
- (2) ～ (6) 細目
- 6. 観光について
 - (1) 総論
 - (2) ～ (2.5) 各訪問先
- 7. 最後に

第1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：Focus Law Asia LLC（以下「FLA」）

滞在期間：2024年9月9日～28日（エクスターン期間：9月10日～同27日）

第2 事務所の業務・構成・勤務条件及びエクスターンの内容等

1. 事務所概要

(1) 位置づけ²

FLAはシンガポール法に基づいて設立されたローファームで、One Asia Lawyers Groupのシンガポールメンバーファームです。

(2) 取扱業務³

企業法務、訴訟、家事、刑事⁴等多岐にわたります。

(3) 構成

- ・弁護士：約25名
- ・事務方：約10名

(4) 勤務条件

- ・勤務地：Focus Law Asia LLC（16 Raffles Quay #21-01 Hong Leong Building Singapore 048581）
- ・勤務時間：平日9時～18時（昼休憩約1時間。当然ながら敬老の日・秋分の日は平日）
- ・服装規定：オフィスカジュアル（私は半袖カッターシャツとスラックスで過ごしました）

² One Asia Lawyers公式hp「シンガポール提携事務所」（<https://oneasia.legal/office/singapore>）

³ Focus Law Asia LLC公式hp（<https://www.focuslawasia.com/>）

⁴ 鞭打ち刑が執行されて話題になった事件を受任されたのはFLAの先生です。

- ・給与・手当：なし（個人のインターン⁵であれば有給）
- ・福利厚生：フリードリンク（水、お茶（煎茶、綾鷹）、コーヒー、コーラ）
- ・その他：お土産やお中元に相当するお菓子⁶をいただくことができました。

また、お昼や仕事終わりにご飯に連れて行っていただく機会もありました。

2. エクスターンの内容

(1) 業務の進行

何事においても、「求めよ、さらば与えられん。」という印象を受けました。第2週目（9月16日）にシンガポール法のレクチャーをいただきましたが、基本的には、まずは先生方からタスクを振られて、わからないことがあればその都度訊きに行きました。私を含む日本人インターン生と直接関わりがあったのは Japan Team の先生方で、タスクは主に3名の先生からいただきました。

タスクは先生方の抱えておられる案件のうち一部を切り取ったもので、各先生のタイミングで回ってきました。内容は多岐にわたり、契約書面の書換えやスライド作成等もあれば、クライアントからの生の依頼に対して回答案を作成するというシンプルながら考えることの多いものもありました。

事務所全体として大変お忙しい時期に当たったところ、バラリーガルの方を含め、質問には毎度丁寧に対応してくださいました。私にできそうなことを切り分けていただくことにはお手数をおかけいただいたと思います。

(2) 業務の内容

一部重複していますが、先生方から割当てをいただいた回数に応じて、可能な限りで記載しています。

○第1週

- ・再雇用契約書の作成
- ・個人情報保護法制・運用に関連するスライドの作成
- ・Nominee Director⁷に関する2024年施行の改正Company Act 1967（会社法）の規定の調査・報告
- ・日本の支払調書に関する制度の調査・報告
- ・ASEAN諸国の当局が近時発表した個人情報保護に関するインシデントレポートの要約
- ・株式買取契約書面の作成

⁵ FLAにおいてこのイベントは「インターン」と呼称されていたので、本レポートでも神大ローの学生以外にはインターンの語を用います。

⁶ 沖縄の黒糖ブリッツ、Moon Cake（中秋の月餅。「博多通りもん」にやや近い）、台湾のパイナップルケーキ、シンガポールミルクティー等をいただきました。

⁷ 被指名取締役と訳され、債権者や労働者といった特定の集団、その他の者に指名されて、それらの物の利益を代表するために会社の取締役になっている者です（脇田正典『シンガポールビジネス法のエッセンス』（後掲第7-4(1)) 120頁）。

- ・企業の買収に際してのDue Diligence (DD)の報告の傍聴
- ・ASEAN諸国の個人情報保護法とその運用に関するレクチャーへの同行

○第2週

- ・シンガポールの法体系、法令・判例の調べ方に関するレクチャーの受講
- ・特定の取締役のNominee Director該当性についての報告書作成
- ・シンガポール会計企業規制庁（登録及び規制執行）法の改正点の調査・報告
- ・企業の買収に際してのSales and Purchase Agreement (SPA)の作成
- ・ベトナム法・ASEAN諸国の動向を踏まえた、特定業種の企業の買収に関するリスクの調査・報告
- ・転借人の転貸人に対する敷金返還請求に際して、転貸借契約書面の分析と2024年施行のLease Agreements for Retail Premises Billの調査・報告
- ・銀行の書類の取扱いに関する、シンガポールの規制当局への照会を踏まえた報告書作成
- ・不動産に関する支払調書の取扱いについての調査・報告
- ・ワーキングホリデーの企画に向けたシンガポールの雇用法の調査・契約書面の作成
- ・解雇済み取締役が会社が無断で行った取引に関して、当該取引の準拠法たる英国法の調査・報告

○第3週

- ・イギリスからシンガポールへの訴状送達手続（主にCivil Procedure Rules）に関する調査
- ・シンガポールのVariable Capital Companyについてまとめたスライドの作成
- ・企業の買収に際してのSPAの修正
- ・Singapore International Commercial Court（シンガポール国際商事裁判所）の概説の執筆
- ・交通事故（人身）の被害者側代理人としての現場の検証、現場周辺への聞き取り⁸への随伴
- ・シンガポールの汚職規制⁹に抵触せず取引先へ手土産を贈る方法に関する調査・報告

第3 宿舎及びその他の生活環境について

- ・施設名：Coller Chinatown
- ・所在地：シンガポール最古のヒンドゥー寺院、スリ・マリアマン寺院の門前
(Chinatown駅から徒歩4分、Maxwell駅から徒歩2分)
- ・タイプ：カプセルホテル
- ・水回り：風呂トイレ同室（洋式便器とシャワー。バスタブなし）

⁸ 被害者側に公設防犯カメラの映像の提供を受ける権利はないため、私設のカメラ映像の提供依頼も行いました。

⁹ 私人間での贈答も汚職規制の対象で、競争を重んじる資本主義的発想が現れていると言えます。

- ・宿泊料：132,615円（19泊20日）
- ・無料設備：洗濯機、ウォーターサーバー、冷蔵庫、コーヒーメーカー、電子レンジ、鍵付荷物入れ、マッサージチェア
- ・通勤時間：徒歩15分
- ・住み心地：リノベーション初年¹⁰かつ日に数度の清掃があり、それなりに清潔。
宿泊客のいびき以外に特段の騒音なし（アメニティに耳栓あり）。
一応の荷物置場があり、カプセル外にもスーツケースを置けるスペースあり。

第4 出発に向けた準備等について

1. 参加の契機

エクスターンの存在を知ったのは、申込締切前々日の6月4日でした。直感的に面白そうだと感じ、とにかく手を挙げようと思って申し込みました（一部重複する時期にFLAにいた神大ローのクラスメイトは学部時代から本エクスターンを見据えていたようで、その周到さに感銘を受けました）。

2. 選考

（1）時系列

どのようにして派遣に向けた選考を受けるのかという点はおそらく申込みの際に一番気になることだと思います¹¹（少なくとも私はそうでした）。

私の場合、6月21日にインタビュー（面接という名称ではなく、応募者について知る機会という位置づけであったように思います）があり、7月1日に参加可能日程の打診を受け、同月10日に派遣決定の通知を受けました。

（2）インタビュー

第二学舎の会議室で、3名の先生からインタビューを受けました。

話したいことを用意していこうとは思っていたのですが準備が全く足りず、また、英語を喋るのは学部の一般教養の授業以来だったので不安しかなかったのですが、手を挙げた以上は行くしかないと飛び込みました。事前情報からS先生に英語でいろいろ訊かれるものだと思い込んでいたので、案外日本語を喋る機会が多くて驚きました（ひょっとすると私の英語（と途中で一瞬求められた中国語）が下手すぎたことも一因かもしれませんが）。

¹⁰ 建付けが悪かったり水漏れがあったりしましたが、不具合は概ね2日以内に対処されていました。

¹¹ 「神戸大学法科大学院では…アジア各国の優良な法律事務所との連携を促進し、希望者全員を適切なエクスターンシップ先に派遣できる体制を十年がかりで構築してき…た」そうです（神戸大学法科大学院、前掲注1）。

先生方は和やかに接してくださり、私の経験や興味を掘り下げていただきました。具体的に話題に上った事項は、エクスターンの志望動機や学部での過ごし方（ゼミ等）、海外経験、好きな科目・苦手科目、興味のある法分野、法曹になったらやってみたいこと、派遣先としてシンガポールと台湾のどちらを希望するか、等です。

インタビューを終えて特に受かったという手応えはなく、また、期末試験等の試験が近づいていたので、ひとまず目の前の試験に臨みました。

3. 準備

(1) 時系列

費用負担に関して、過去のレポートを参考に、「こういうプログラムに参加できるかもしれない、参加できる場合にはこのくらい支援してほしい」、と親に頼むところから始まりました。急にまとまった額を出すように頼んでしまいましたが、快諾されて助かりました。

7月10日に派遣期間の通知を受け¹²、予備試験の短答式試験が終了した7月14日ごろから本格的に準備を始めました。7月16日にはC先生から語学面での準備を中心にレクチャーを受けました。英語の教科書をお貸しいただいたほか、英語のドラマ・映画で少しでも耳を慣らすようにとアドバイスをいただきました。残念ながら映画を1本（*Legally Blonde 2*¹³）見たほかはあまり渡航前に教えを実践できませんでしたが、「このくらいの準備をすれば大丈夫」という目安を教えていただいたことで心が楽になりました。また、C先生には事務所に提出するCV（Curriculum Vitae ≒ 履歴書）の書き方を教えていただき、添削もしていただきました。

7月末から2週間の期末試験と並行しての種々の登録手続・予約は忙しくはありましたが、教務グループの方に適宜指示をいただき、なんとか間に合わせることができました。

9月は7日と8日の論文式試験の対策に集中したかったため、パッキングは8日夜と9日朝の自分に任せ、保険等の手続だけはとにかく8月中に区切りを付けました。

(2) 物品

シンガポール滞在に向けて国内旅行と比べて特別に必要な物品としては、変換プラグが挙げられます（シンガポールのコンセントは3穴のBFタイプです）。私はUSBケーブル（タイプA）にもつなげられるものをAmazonで手に入れました。

飲み水に関しては、少し探せば500mlペットボトル入りの水が1本1ドルで手に入るため、浄水器類の用意までは必要ないと思います。事務所内にフリードリンクがあったこともあり、滞在中に飲み水の調達に困る場面はありませんでした。

¹² FLAとはK先生にお取次ぎいただきました。

¹³ 西海岸育ちの主人公が一念発起してNY弁護士になる*Legally Blonde*の続編で、アメリカ版リーガルハイです。

長期滞在になるため、爪切りは必須です。ただし、お土産として1ドルで売られているキーホルダー型の爪切りでも十分に切れるため、現地調達するのもありだと思います。

洗濯が頻繁にできるとは限らないので、服は多めの方がいいと思います。私は渡航前日にユニクロでカッターシャツとスラックスを2着ずつ買い足しました。

4. 語学

(1) 総論

日本語が通じない環境に行って英語が飛び交う中で生き残らなければいけないというイメージを持ってエクスターンに参加しました。海外に長期滞在した経験もない上に学部の入試以降特に伸びていない（どころか衰退している）英語力で太刀打ちできるのかという不安はありましたが、準備期間もなかったので、まあ何とかなるだろうと飛び込みました。

結果として、英語力不足で致命的に足を引っ張られるということはなかったように思います（もっと英語が読めたら楽だったのにとすることは多々ありましたが）。

(2) 意思伝達

リーディングについては後ろに譲って、コミュニケーションについて少し書きます。

所内では、タスクは日本人の先生方が日本語が堪能¹⁴な先生のいずれかから回ってきたため、エクスターン業務に関する意思伝達で困ることはありませんでした。その他の所内のコミュニケーションも特段高度な語彙は必要ありませんでした。

所外でも、買い物・観光レベルのコミュニケーションにおいて語彙力はあまり重要ではなく、伝えたいことを簡潔に発して身振りやスマホの翻訳を交える等複数のチャンネルで意思表示することで大抵のことは何とかなった気がします。

第5 エクスターンに要した費用

1. 総論

宿泊費と航空券が大きな出費になると思います。公益財団法人神戸大学六甲台後援会¹⁵から往復航空券の代金に相当する額の補助をいただきました。

シンガポールは物価が高いイメージがあるかと思いますが、実際そうでした（例えば、セブンイレブンではパサパサのサンドイッチが4ドル少々、500mlのコーラも4ドル少々）。もっとも、各地にあるホーカーズと呼ばれる食堂（屋台の集合）では1食4ドルから8ドル程度で済ませることができ、食事以外でもチャイ

¹⁴ 「かんのう」と読むのが正しいそうです。

¹⁵ 公式ホームページ：<https://rokkodaiFund.com/>

ナタウン、リトルインディアといったいわゆるキラキラしたエリアでないところ（キラキラはしていたかもしれませんが）では、日本とあまり変わらない物価であったように思います。

屋台でもクレジットカードのタッチ決済が使えることが多く¹⁶、現金が必要になる場面は少なかったです。また、関空で1ドル120円で両替したのですが、保安検査場を抜けた先では1ドル115円で、聞くところによるとチャンギ空港では1ドル110円程度だったそうです（エクスターン期間中のレートは1ドル110円前後で、クレジットカードを利用する場合のレートも同程度でした）。現金を手にするタイミングはあまり焦らなくて良いと思います。

屋台や地下鉄ではレシートがもらえなかったり金額が表示されなかったりするため、なるべく1枚のカードを使って支出を振り返りやすいようにしました。

三井住友カードと楽天カードは不正検知システムが敏感で海外で使うと止まりやすいという話を聞いていましたが、三井住友のVISAカード（NL）をメインに特に問題なく過ごすことができました（楽天のVISAカード、メルカリのJCBカードも問題なく使えました）。

2. 支出概要

クレジットカードの支出は明細に記載された金額を、現金の支出は両替時のレート（1ドル120円）で換算したものを記載しています。

（1）総費用：320,980円

※六甲台後援会から67,978円の補助があり、医療費は保険でカバーされたため実質負担は235,522円です。

（2）項目別費用

- ア 航空券：70,509円
- イ 宿泊費：132,615円
- ウ 食費：36,895円
- エ 通信費：2,005円
- オ 交通費：8,135円
- オ 医療費：17,480円（0円）
- カ 観光：2,682円
- キ お土産：22,269円
- ク 保険料：28,390円

3. 支出細目

¹⁶ クレジットカードの差込みが求められたことは一度もなく、比較的安全性は高かったと思います。

(1) 航空券：70,509円

<往路>

関西国際空港 → チャンギ国際空港

Scot : 36,160円 (運賃26,360円、税金4,100円、手荷物5,700円)

<復路>

チャンギ国際空港 → ニノイ・アキノ国際空港 → 関西国際空港

JetStar : 34,349円 (運賃157.2ドル、手荷物53.8ドル等、合計286.2ドル)

(2) 宿泊費：132,615円

Coller Chinatown : 132,615円

(3) 食費：36,895円

ア クラークキーでの会食：82ドル (9,840円)

イ その他：27,055円¹⁷

(4) 通信費：2,005円

・KKDAY Japan経由でeSIMを購入しました。

ア メイン回線

1日1GB (20日間) : 1,481円

イ サブ回線

1日1GB (6日間) : 524円

(5) 交通費：8,135円

ア 国内

・下宿→関西国際空港：2,300円 (リムジンバス利用)¹⁸

・関西国際空港→下宿：1,610円 (関空快速利用)

イ シンガポール内

・MRT・バス：4,225円

¹⁷ このうち30ドル分はエクスターン初日に食べたうどんです。

¹⁸ リムジンバスの車窓からは9月6日にオープンしたばかりのグラングリーン大阪や8月にサマークラークで通っていた中之島エリアを望むことができ、大変良い門出となりました。

(6) 医療費：17,480円 (0円)

- ・ Raffles Japanese Clinicを受診しました。
- ・ 診察、処方：156.95ドル (17,480円。保険でカバーされました。)

(7) 観光：2,682円

- ・ マリーナベイサンズ展望台：23.6ドル (2,682円)

(8) お土産：22,269円

※個別の支出額が分からなかったものについては、総額を算出して「お土産」項目に計上しました。

(9) 保険料：28,390円

- ・ OSSMA Plus会費：9,880円
- ・ OSSMA Plus会員専用上乗せ海外旅行保険Cプラン：4,430円
- ・ ジェイアイ傷害火災保険：14,080円

※OSSMA Plusは神大ロー指定の必須の保険です。ジェイアイ傷害火災保険は自己判断で加入しましたが、特に加入する必要はなかったと思います。

第6 これからエクスターンに参加される方へのアドバイス等

1. 総論

慣れない環境でエクスターン生にできることには限りがありますが、「自分の雀の涙ほどの進捗も先生方のクリエイティブな仕事時間を5分くらいは守っていて、それはクライアントの利益になり、ひいては国益につながる」くらいの自己肯定感を持たれば楽しめると思います。

シンガポール内の大概の場所では「みんなの物を大事に使う」という意識は希薄です¹⁹（だからこそ厳しい罰則があります）。許容幅を広くとって生活するとストレスを抱えずに済むと思います。

2. 落とし物

9月9日の関西国際空港にて、手荷物預けの際に受け取った搭乗券を出国審査ゲートあたりで落としてしまい、危うくエクスターンが始まらないという最初にして最大のピンチを迎えました。幸いScootのスタッフの方が落とし物センターまで受け取りに行ってくださり、事なきを得ました（機内での日本語放送も丁寧で、良い旅を提供してくれる会社でした）。搭乗券は鞆の深いところにしまっておきましょう。

¹⁹ 他方で目の前の人に対しては優しい人が多く、国中どこでも邪険に扱われるということはありませんでした。

3. ドア

シンガポールの建物ではいろいろな箇所でロック解除ボタンを押さなければ開かない扉があります。扉が開かないときは鍵マークの付いたボタンを探しましょう。

4. 体調

(1) 体調管理

エクスターン2週目の月曜夕方から水曜午前（9月16日～18日）にかけて、おそらく何かによって断続的にお腹を下しました。また、熱中症気味だったのか、同期間は頭痛も抱えていました。身体が水分を保持できなくなっているのを感じてなかなかしんどかったです。また、同時期にインターンに参加していた学生も最終週の日曜日（9月22日）から2日間体調を崩していました。

幸い両方すぐに治りましたが、勝手知れない異国での体調不良はメンタルまで蝕まれますし、寝ているだけで何もできない時間は国内に輪をかけてつまらないので、ぜひ体調管理には気を遣ってください。特に除菌シートが有用だと思います。

(2) 保険手続

病院から保険会社に対して直接請求が行くキャッシュレス手続があるのですが、保険内容の控えでは足りず、保険証書が手元にないと使えませんでした。証書を発行するのに別途申請が必要な会社を選んだときは、余裕をもって出国前に発行手続を済ませておきましょう。

とはいえ、帰国後に申請を行っても迅速（2日後）に入金があったので、あまり心配する必要はないと思います。

5. 宿泊

(1) 宿泊地

宿泊地はなるべく事務所に近いところにすべきだと思います。遠いところに安い宿を見つけたとしても、多少の差額は通勤時間と交通費で埋まるためです。

今回のエクスターンは毎日9時出勤の生活だったため、下宿暮らしの私にとっては普段よりも早起きが必要でした。徒歩で通えるところに泊まり、朝の貴重な時間はぎりぎりまで睡眠に充てました。

(2) 宿泊施設

宿泊施設とすべき場所は、ご自身が何に重点を置くかによって異なると思います。口コミ等を参考にしつつ、納得がいくまで悩みぬいてください。

個室に宿泊するのが一番快適かつ安全だと思いますが、私はFLAに徒歩で通える近さに加えて安さも重視したかったので、複数のサイトを比較してBooking.comからカプセルホテルを予約しました。

ほとんどのカプセルホテルでは東京大の三鷹寮のようにトイレとシャワーが一体化しているため、水に濡らせる履物は必須です（ホテルに用意されていることも多いと思います）。シャンプー類は備付けのものがあってもあまり質が良くないので、持参することを勧めます。

シャワーとトイレが分離しているタイプのホテルに泊まったインターン生からはトイレが汚くて使えたものではないと聞いたので、清掃が頻繁でない施設の場合、2つが同室にあるのはむしろメリットなのかもしれないかもしれません。

6. 厳しいルール²⁰

シンガポールでは道端に唾を吐くと罰金が科されるというのは有名でしょう。3週間暮らす中で、「明るい北朝鮮」というあだ名はある程度妥当だと感じました。

開発独裁の名残なのか、人権保障の意識が日本と比べて希薄であったように思います。身体刑である鞭打ち刑が頻繁に（弁護士の体感ではほぼ毎週だそうです）執行されているのは言わずもがな、雇用契約では被用者の立場が弱い（解雇は容易で最低賃金もない）ですし、賃貸借では賃借人の立場が弱い（賃借人を一方的に追出し可能）です。ある先生は、この国の法制度を極めて資本主義的と仰っていました²¹。

薬物犯罪は死刑も含む厳罰が用意されており、確定判決は対象者の国籍国の意向を問わず執行されています。日本人学生がアラブストリート辺りで「ハッピーパウダーに興味はないか」と声をかけられた事例もあるらしく、犯罪に巻き込まれないように気を付けてください。

お酒に関して、シンガポールでは、22時半から7時までは公共の場所での飲酒は禁じられています（飲酒可能年齢は18歳以上）。「日本人は酒癖が悪い」という話を何度か耳にしましたし、9月にも飲酒の上で公然わいせつに及んだ事案があったそうです。不本意な形で滞在延長がないように気を付けてください。

7. 直行便の推奨

時間が都合よく安価でもあったことから、復路はフィリピンのニノイ・アキノ国際空港を経由する便を選択しました。多くの場所に立ち寄れば土産話が増えるという期待もあったのですが、かなりストレスフルな旅路となってしまいました。

まず、シンガポールを出る前から手荷物預かりのスタッフの方が乗客を相手せずに談笑されていたり、搭乗便を別の時間のものと間違えられて「まだ早すぎるから帰ってくれ」と言われる等、やや不穏な雰囲気がありました。

ニノイ・アキノ空港の乗継カウンターではスタッフの方に理由を告げられずにパスポートと搭乗券を回収されたり、乗継客同士固まって出発まで（4時間程度）待つように指示されたりしました。それに対して

²⁰ 少し古いですが、外務省の以下のファイルが参考になると思います。

「安全の手引き～シンガポールでの生活を安全に過ごすために～」 (<https://www.sg.emb-japan.go.jp/files/000335486.pdf>)

²¹ 会社や資本家にとっては活動しやすい環境だと思います（帰国後お話しした弁護士の方もそう評価されていました）。

抗議が出ると、30分ほどして空港側の方が登場して、「なぜこんな時間（午前2時台）に出発ロビーに移動したがるのか」、「お前たち（乗継客）は仲間か」等の質問を受けました。パスポートと搭乗券を返却されて出発ロビーに上ってみれば数百人の待合客がおり、なぜ私たち10人弱だけ目を付けられたのかはわかりません。

もっとも、良かった点もありました。出発ロビーには売店が並んでおり、肉まんを食べたりドライマングーやクッキーを買ったりすることができました。また、シンガポールからマニラの便で隣席し閑空に行く便にも乗るトルコ人学生と話して、大阪・京都の観光名所を紹介したり、彼のキャンパスにある桜（日本から運ばれたものだそうです）の写真を見せてもらったりして交流を深めることができました。

結論として、乗継ぎで旅の思い出は増えますが、心身への無用な負担を避けるという観点からは直行便に乗ることをお勧めします。

第7 エクスターンの有用性等に関する評価及び感想

1. 概要

「3週間で実務レベルの英語を習得してコモンローを修めました。」と言えば大嘘になりますが、わからないなりにまずは手を動かしてみることに抵抗感はなくなりました。学校からの派遣という守られた環境で海外の実務に触れることができる貴重な機会でした。

事務所の方々はいつも丁寧に接してくださいました。エクスターン同期にも恵まれました。

シンガポールで一定期間過ごすことそのものに特色があるプログラムだと考えるため、シンガポールの生活についても記載しました。

2. 弁護士業務の体感

(1) サマークラークとの比較

今回のエクスターンの前に、8月に2回、大阪でのサマークラークに参加しました。学部時代に参加したサマーインターンと併せて、国内の企業法務について大まかなイメージを持っていたところ、エクスターンで3週間かけて先生方の姿を拝見したことで、自分の目指す弁護士像をある程度具体的に思い描けるようになりました。

サマークラークでは、担当弁護士が過去に受任した案件を基にした問題形式の課題を数個与えられて、並行して複数弁護士から体験談を交えた実務についての比較的具体的なレクチャーを受け、最終日に課題の講評がある、というのが典型的なパターンであるように思います。丁重に扱われる一方で客人としての距離感もある、システムチックなイベントという性質が強いと感じます。

本エクスターンは、事務所の方々や実務との距離の近さに特色があると思います。学校からの派遣であるという性質上手当はなく、家計への負担を強いることになることは事実です。その一方で、期間中は—

人のメンバーとしてFLAの方々に温かく迎え入れていただき、また、多くの生の事件に触れることができました。第2-2のように、実際に先生方が抱えておられる案件の一部を切り取ったタスクを各先生からお受けしたのですが、それぞれのタスクは評価のための課題ではなく、実際の法曹の仕事の一部を体験させていただく機会でした²²。見たことも聞いたこともない情報を集めて組み立てていくという未経験の連続に面白さ（・大変さ）がありました。

（2）エクスターン業務の感想等

先生方が受任しておられる様々なクライアントからの案件を見たことで、弁護士業は社会、とりわけ経済活動を円滑に回すためのインフラ的な営みであることを再認識できました。

交通事故に関する現場検証と現場周辺の私設監視カメラの映像の提供依頼、周辺の人への聞込みに同行させていただいた際、先生方が“*I'm a lawyer.*”と名乗るとスムーズに事が運んだのを目にして弁護士への信頼の厚さを感じ、私も早く法曹になりたいと思いました。

報告書を作成するタスクでは、もちろんチェックと修正を経て弁護士名義で発信されるとはいえ、自分が作成したファイルがクライアントに送信されていくということに新鮮な驚きを感じました。

また、どのような情報も弁護士から送信されればクライアントにとっては法律家からの助言として受け取られるということを目の当たりにし、専門家のもので言葉が発されることの重みを感じました。

私に割り振られたような情報収集・報告、書面作成についても先生方が直接行う方が効率的で正確性も高いことは言うまでもありませんが、先生方が専門的な知見を要求される場面にリソースを割くための時間を（わずかでも）守っているという点で自分のエクスターン業務には意味があると感じることができました（遙か昔に習ったリカードの比較生産費説の記憶が蘇ってきました）。また、インターネットで手に入る情報でもニーズに即してまとめ直せばクライアントにとって価値あるものになるということから、法学研究入門演習でN先生が仰っていた、既存の情報（研究）をまとめるだけでも人の役に立ち、価値がある、という言葉の意味を知ることができたように思います。

3. 人間関係

（1）所内

FLAの方々はいつも優しく接してくださり、とりわけ、上記のように丸2日ほど体調を崩していた際、落ち着くまでホテルに待機したり、早退して事務の方が紹介してくださった日本人病院を受診したりすることができました。

上記のように日本人の先生か日本語が堪能な先生からタスクを割り振られており、質問には快く対応していただいたので、疑問点はすぐに解消することができました。パラリーガルの方²³も日本人で事務方にも

²² 兵庫県民の方には「トライやるウィーク」をイメージしていただくとわかりやすいと思います

²³ オーストラリアの弁護士（Solicitor）資格をお持ちの方もいらっしゃいました。

日本人の方がいらっしゃり、また、全員少なくとも英語は通じるので、コミュニケーションで難儀することはありませんでした。

最終週には事務の方の退職の場面に立ち合い、皆に惜しまれつつFLAを去って行かれました。私もわずか2週間のお付き合いではありましたが、日本人病院を紹介していただく等様々なサポートをいただいていたので、大変寂しかったです。

先生方にはお昼や退勤後にご飯に連れて行っていただくことがあり、シンガポールでの弁護士生活、就職・転職事情、子育て事情等、実体験に基づいたお話を伺うことができました。特に最終日には美味しい日本料理のある居酒屋に連れて行っていただき、大変楽しい締めくくりとなりました。

他のインターン生に関しては、初週は神大ローのクラスメイトと一緒に、事務所やシンガポールでの生活に慣れるまでの期間に孤独を感じるものがなく、心強かったです。また、初週金曜日からは西南学院大学（福岡市）のインターン生が参加し、終了日も同じだったのでエクスターン期間中に日本人学生が一人になることはなく、こちらも心強かったです。

（2）所外

基本的に退勤後は毎日他のエクスターン生と一緒に過ごしました。法科大学院では教室・自習棟で毎日顔を合わせることで同級生と仲良くなりますが、それと同じように、毎日一緒に過ごしたエクスターン生とは打ち解けるのも早かったです。

初週は上述のクラスメイトと、たまたま旅行に来ていた慶應ローの友人とその友人を加えて4人でクラークキー周りを観光することができました。そのクラスメイトとはエクスターン前はあまり話したことがなかったので、期間中に仲良くなれて嬉しかったです。13日からは西南大のインターン生と基本的に毎日過ごすようになり、マイナーどころを含めた様々な観光地を練り歩くことができました。

また、家族や友人とはLINEや通話で密に連絡を取り合っていました。帰りを待っていてくれる人がいるという事実は心の支えになりました。

他にインド系の学生ともインターン時期が一部重なっていたので、もう少し話しておけばよかったというのが反省点です。

4. 学習

（1）国外法

英語の条文や契約書を読むことは避けては通れませんでした。知らない単語や語法が頻出し、法律用語の適切な訳語は辞書には出てこないことも多かったですが、日本法の規定を思い出しながら繰り返し登場する言葉の意味を取ることができました。

シンガポールの法令を調べる必要がある場合はe-Govのシンガポール版であるSingapore Statutes Online²⁴を

²⁴ Singapore Statutes Online公式hp： <https://sso.agc.gov.sg/>

使いました。このサイトはレイアウトの見やすさや参照のしやすさからかなり重宝しました。また、英国法（イングランド法）はシンガポール法の母法²⁵であることから、シンガポール法に目が慣れるとノリで何となく読めるようになりました²⁶。

たまたま渡航1週間前にメルカリで見つけた『シンガポールビジネス法のエッセンス』という本²⁷は、シンガポール法のイメージをつかむのに役立ちました。前述のクラスメイトも同じ本を持参していました。

調査に際して手元に全く資料がない分野であったとしても、少し調べれば概ねどの分野に関しても海外で活動している機関や弁護士の作成した日本語の概説があり、取っ掛りをつかむことができました。特にベトナム法を調べる必要が生じたときは、ベトナム語もフランス語もわからないのにどうしようと思いましたが、英語で公式の法文が発表されていたりJetroが日本語訳を公開していたりしたのでなんとかなりました²⁸。

（2）国内法

ある訴訟案件では、日本の支払調書の取扱いについての調査が必要となりました。その際、国税庁の公式サイトが大変役立ちました。成文法の国であることに加え、公的機関が丁寧かつ平易な説明をしてくれているという点で、日本は暮らしやすい国であると感じました。官僚として活躍しているかつての同級生たちに感謝の念を覚えました。

（3）司法試験科目

一応教材を持ってきましたが、往復の機内で予備校テキストを読んだり、2日目に論証集を作成した以外は、エクスターン中に日本人学生が一人になる期間がなかったこともあって、余暇は観光にあてることが多かったです。学習時間は甘く見積もって一日あたり30分から1時間といったところでしょうか。

後期の時間割を組んだりZOOMの説明会の録画を見たりして、友人と連絡を取りながら、なるべく後期の授業や3Lの国内エクスターンに向けた下準備はしていました。今回のエクスターンに伴う後期初週の授業の欠席について、先生方に個別にメールを送ったところ、「がんばってきてください」と返信をいただくこともありました。後期の間自主ゼミを組む話も進めて、進行表を作ったりもしました。欠席した講義については、授業録画の視聴のほか、友人から授業メモをもらう等してキャッチアップできました。

5. 生活実感

（1）総論

²⁵ Application of English Law Act 1993により、1993年11月12日以前の英国法はシンガポールでも有効です。

²⁶ 英国法を調べる際はLegislation.gov.uk (<https://www.legislation.gov.uk/>)を参照しました。

²⁷ 平野温郎・板持研吾編集代表、大塚周平・岡本直己・コー・アラン編『シンガポールビジネス法のエッセンス』（中央経済社、2022年）

²⁸ 他の場面でもJetroの資料にはお世話になりました。

- ・総じて先進性とそうでもない部分の両方を感じることができる面白い国でした。
- ・ルールの厳しさは多民族国家で秩序を維持するためにはある程度やむを得ないと思えました。

(2) 気候

- ・気温は安定しており、エクスターン期間中、一日を通して28°C~32°C程度でした。
- ・湿度が高く日差しもあるため、日中外に出るとかなり暑いです。他方で、室内ではエアコンがきついていると多く、長袖を着ている人も多かったです。
- ・たまにスコールがあり、日本の夕立（ゲリラ豪雨）と比べてしつこかったです。

(3) 手続等

- ・入国手続は1分で終わり、官憲との問答もありませんでした（名前の読み方を尋ねられただけ）。
- ・どこでもクレジットカードのタッチ決済が使えた点は日本よりも先進的でした。

(4) 街の様子

ア 街並み

- ・人が集まるエリアは綺麗に整備されており、綺麗な国というイメージは都心部については妥当します。
- ・治安は良く、物を盗まれることはありませんでした。
- ・ポイ捨てに罰金が科される代わりにゴミ箱が多い（上に灰皿も付いている）等、厳しいルールを設ける一方で、それを遵守しやすくする努力は感じられました。
- ・ゴミの分別はあまりなく、随所に設置されているゴミ箱に何でも入れられました。
- ・中心部を少し外れると吸い殻等ゴミが目立ち、また、信号無視が多くなりました。
- ・人通りの多い箇所では音声信号やエレベーター、スロープが設置されており、バリアフリーに関して一定の配慮がされていました。
- ・もっとも、エスカレーターのスPEED²⁹、エレベーターの扉の閉まるタイミング³⁰、歩行者信号の変わるタイミング³¹等、随所で配慮不足が見られました。街に老人が少ない³²ことも関係すると思われます。

イ 建築・設備

- ・自由な形の建物が多い印象を受けました。地震のリスクの低さが原因なのでしょう。
- ・表面上綺麗な建築であっても節々にリノベーション前のものが残っていたり建付けが悪かったりと、詰

²⁹ 滞在中に出会った友人がまず驚いていたのがエスカレーターのスPEEDでした。

³⁰ どこも神大アカデミア館のエレベーターくらいせいかちです。

³¹ 健康な大人が余裕をもって渡り切れる程度の時間しか確保されていません。

³² 実際、2023年6月時点で65歳以上の人口は国民の20%未満であった（Jetro「総人口が過去最高、少子高齢化は一層の加速」(2023年10月10日、<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/10/a2c6423844049c19.html>))

めの甘さが随所に見られました。

- ・工事現場と歩道の区別が曖昧で、歩道にも粉塵が流れていたり、歩道で重機が動いていたりしました。
- ・観測した限りではウォシュレットはありませんでした³³が、大抵の場所でトイレが清潔に保たれている時点でシンガポールは恵まれた国であると言えます。

ウ 人々

- ・中華系、インド系、東南アジア系、白人等多様な人種が見られました。このエクスターンは、自分がマイノリティー側に立つ、日本では珍しい機会となりました。
- ・警察官を含む肉体労働者はインド系ばかりでした（工事現場等で中華系を見ることはありませんでした。また、彼らの移動手段はトラックの荷台に積まれるというものでした）。
- ・平日は18時ごろから町が混雑し始め、退勤時間を厳守する国民性を感じました（日本人病院を訪れた際も18時には多くの職員が帰宅を始めていました）。
- ・旅行者を含め着飾った人は少なかったです（例外は植物園で見かけたコスプレイヤー）。
- ・シンガポールは日本人の渡航先として人気があり³⁴、行く先々で日本語が聞こえました。上述の慶應ローの友人のほかに、私の入国前日までシンガポールに旅行に来ていた学部時代の友人がいたり、高校の同級生が私の滞在中にトランジットでチャンギ国際空港を訪れる等、私の身の回りでもシンガポールを訪れる人はかなりいる様子でした。

（5）交通手段

- ・街がコンパクトなので主要なエリアは歩いて移動できます。
- ・地下鉄網が張り巡らされており、クレジットカードのタッチ決済でどこにでも移動できました³⁵。
- ・バス網も充実しており、2階建バスで市街地を疾走するのはアトラクション的な体験価値があります。景色を楽しむため、短・中距離であればバス移動を推奨します。
- ・車内での飲食は厳禁（MRT車内での飲食にかかる罰金は500ドル）です。

（6）食事

- ・安さを追求しながらそれなりに充実した食生活ができます。

ア ホーカーズ

- ・上述のように屋台の集合からなる食堂（市場）であり、FLAから道を挟んで向かい側にはシンガポール

³³ 多くのトイレには銀色の小さな手持ちのシャワーがあり、ウォシュレットの仲間と言えなくはないです。

³⁴ 在留邦人は32,743名いるようです（外務省「シンガポール基礎データ」
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>))

³⁵ 日本では京都丹後鉄道、南海電鉄、東急電鉄等で実装されています（阪急電鉄は2024年10月29日に開始予定）。

を代表するホーカーズ、ラオパサ（老巴剎）³⁶があります。

- ・ホーカーズの料理は味に関してレストランのものと大差なく、インド料理、中華料理、タイ料理、マレーシア料理、韓国料理、日本料理等、いろいろな国の料理を楽しむことができます。
- ・とはいえ、ホーカーズに限った話ではないですが、基本的に日本人好みにカスタマイズされた料理はないため、料理の種類の豊富さの割には飽きが来ます。回る順番を工夫して対応しましょう。

イ ラオパサで特にお薦めするお店

(ア) 徳利 (TECKEE)

- ・プレートを中心にご飯が盛られ、ずらりと並んだ中華のおかずのうち好きなものを指さしてプレートを完成させます。
- ・安さと選択肢の幅が魅力で、4~5ドル程度で比較的バランス良い食事ができます。

(イ) Fragrance Garden Chicken Rice

- ・海南鶏飯（チキンライス）のお店です。白色の焼かれていないチキンは柔らかく美味しいです。

(ウ) Mr. Tom Yum Thai Kitchen

- ・二郎系のような商品写真が掲示されているタイ風麺類のお店です。
- ・牛骨スープはあっさりしつつコクがあり、日本でもたまに目にする牛肉麺に近い系統でした。具材も麺も優しい味わいで、脂っこい料理に飽きた際にちょうど良かったです。

(エ) Delhi Indian cuisine

- ・辛いと書いて「つらい」と読むインド料理店です。
- ・エクスターン最終日の昼に訪ね、ボリュームミーなビリヤニセットを食べました。あまりの辛さに滞在中唯一食べ残しを覚悟しましたが、辛さを超えた先に美味しさがありました。

ウ ファストフード

- ・マクドナルドではマックチキンのセットを5ドルで用意しています。日本と同じ内容・同じ価格帯・ほぼ同じ味ですが、ドリンクの氷抜きがデフォルトで選択できました。
- ・バーガーキングも6ドル程度でチーズバーガーセットを用意しています。
- ・モスバーガーはバーガーひとつ8ドル以上とそれなりに値が張りますが、美味しかったです。

³⁶ 魚市場を起源とするシンガポール最古の市場で (Wikipedia「ラオパサ」

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%83%91%E3%82%B5>))、特に昼は休憩中の労働者と観光客で大混雑します。また、ラオパサでは新京極商店街のようにずっとテーマソング（高クオリティでした）が流れていました。

- ・スターバックスのドリンクは日本より50～100円程度高い印象を受けました。

エ ビール

- ・タイガービールが代表的です³⁷が、ハイネケン³⁸やスーパードライ、プレミアムモルツといった日本でもよく目にする銘柄が沢山ありました。値段は小さい缶でコンビニなら5.5ドル程度、安い売店だと3.5ドル程度でした。飲食店では1ジョッキ12ドル程度（大きめなら16ドル）でした。ドン・キホーテにはSAPPOROの日本では見ないジョッキ型の650ml缶があり、6.5ドルで手に入りました。

6. 観光について

(1) 総論

- ・狭い国土の中で、見るべきものは多いです。
- ・連れがいると楽しいです。
- ・安く済ませようと思えば安く回れます。
- ・元交戦国（イギリス領）なだけあって第二次世界大戦に関する日本への風当たりはやや強めです。

(2) チャンギ国際空港

訪問日：9月9日、28日

- ・シンガポールの玄関口にして東南アジア最大級のハブ空港です。2024年にはSKYTRAXによるアジア最高の空港に選出されています³⁹。
- ・香港国際空港と似た綺麗さで、整備・監視が行き届いている印象を受けました。
- ・空港内に鮮やかにライトアップされた滝があり、国の玄関口からイメージ通りの派手さを味わえます。
- ・MRTに乗ろうとしてジュエル（ショッピングモール）に迷い込み、脱出に30分かかりました。
- ・充電スポット（USB対応）と椅子が多く、またトイレも清潔で、快適に過ごすことができます。

(3) マリーナベイサンズ

訪問日：9月11日

- ・3棟のビルの上に船が乗っているような構造の統合型リゾート（IR）で、2019年の名探偵コナンの映画で見事に破壊されたシンガポールの象徴です。
- ・展望台の料金は会員登録をすると3割引になり、さらに学生割引で2ドル引かれました。
- ・展望台からの夜景はこれぞシンガポールという煌びやかなもので、毎晩六甲台第1キャンパスから眺める

³⁷ 2023年まではタイガービールの工場見学（Tiger Brewery Tour）も存在したようです。

³⁸ タイガービールを製造する会社はハイネケンとシンガポール企業の合併会社だそうです。

³⁹ SKYTRAX 「Best Airports 2024 by Global Region」 「World Airport Awards」 (<https://www.worldairportawards.com/best-airports-2024-by-global-region/>)

100万ドルの夜景よりも色彩豊かでした⁴⁰。

(4) クラークキー

訪問日：9月10日、12日

- ・観光船の行き交う川沿いのエリアで、USJやTDLを思わせる高い天井の商店街があります。
- ・派手な電飾の逆バンジーがあり、賑わっています（保険が適用されないので飛ぶのは断念しました）。
- ・やや値は張るものの、川沿いの席で夜景を楽しみながらの食事ができます。鴨川の納涼床や貴船の川床の立ち位置にやや近いです。

(5) マーライオン公園

訪問日：9月13日、16日、18日、19日

- ・マリーナベイサンズの対岸に位置する、シンガポールを象徴する公園です。マーライオンはライトアップでちよくちよく色が変わります。
- ・2ドルのジュースを売る屋台があり、なかなか美味しいです。
- ・出入自由のライブステージがあり、無料で演奏を楽しめます。

(6) シンガポールシティギャラリー

訪問日：9月14日

- ・シンガポールの計画的な発展と今後の展望について展示する公立の博物館です。
- ・小さな漁村から始まり、国土が狭く資源に乏しいシンガポールがいかにして現在の繁栄をつかんだかという過程と現在の効率的な都市機能が丁寧に示されています。
- ・建設予定建物を含めた街の模型を見ると、未だこれほど発展の余地があるのかと驚かされました。

(7) チャイナタウン

訪問日：9月14日、28日（宿泊場所がチャイナタウン内だったので毎日）

- ・シンガポール国内最大の中華街です。
- ・シンガポール最古のヒンドゥー寺院、スリ・マリアマン寺院があります。土足厳禁で、各祭壇の付近は観光客立入禁止でした。外壁の上には沢山の牛の像が鎮座していました。
- ・比較的物価が安く、また、大抵の物は手に入ったため、お土産はここで購入しました。

(8) リトルインディア

訪問日：9月14日

⁴⁰ もっとも、帰国した日に自主ゼミの初回を終えて自習棟前から眺めた神戸の夜景は、優しく心温まるものでした。

- ・シンガポール国内最大のインド人街です。
- ・ナン2枚とカレーのセットが4ドル等、物価が安いです。
- ・金細工の店とジーンズの店が立ち並び（前者は10mおきに登場）、喧騒はチャイナタウン以上でした⁴¹。
- ・ムスタファ・センターといういかにもイスラム風の名前（ムスタファはムハンマドの別名）のショッピングセンターがあり、インド風ドン・キホーテという印象を受けました。

（9）シンガポール国立博物館

訪問日：9月15日

- ・1849年設立のシンガポール最古の博物館で、白一色の統一感ある建築⁴²です。
- ・京セラ美術館と同様、展示室以外は無料で開放されており、有料エリアも10ドルと安価です。

（10）ブギス

訪問日：9月15日

- ・渋谷・新宿に相当する若者の街（シンガポール版の原宿という表現を見たことがあります）で、若者向けの商店街・ショッピングセンターが並びます。
- ・屋台で購入した1ドルのソフトクリームと2ドルの帆立のおでんは美味しかったです。

（11）アラブストリート

訪問日：9月15日

- ・シンガポール国内最大のアラブ人街で、ブギスの隣のエリアです。
- ・中心部にモスクがあり、その周辺の物価はやや高いです（レストランはどこも一食30ドル以上）。
- ・日本のバブル期を思わせる金ぴかのショッピングモールがあります。
- ・お土産として絨毯風の葉をいくつか買いましたが、後日チャイナタウンで同じものが3分の1の価格で売られているのを見つけてしまいました。

（12）国会議事堂

訪問日：9月19日

- ・シンガポール川に面する周辺の歴史的景観と調和した議事堂で、1999年の建築です。
- ・対岸のビル群との対比が写真映えする建物で、コンセプトは市民に開かれた国会だそうです。

⁴¹ 特に店頭のラジオが繰り返していた“Offer, offer, offer. 2 for 10, 2 for 10.”という売り文句は耳に残りました。

⁴² ホワイトハウスと同じような色彩だと感じましたが、立命大の平井嘉一郎記念図書館や慶應大の新・日吉記念館をイメージしていただいても良いと思います。

(13) Shoppes at Marina Bay Sands

訪問日：9月20日

- ・マリーナベイサンズの袂のショッピングモールで、地下2階からの吹抜けは解放感があります。
- ・建物内に100m程の川（水路）があってボートで移動できます。

(14) Gardens by the Bay

訪問日：9月20日

- ・マリーナベイサンズから道を隔てた向かいにある大規模な庭園です。電飾に彩られた高木風のタワーが立ち並ぶ、シンガポールの代表的な撮影スポットです。

(15) Apple Marina Bay Sands

訪問日：9月20日

- ・マリーナベイに浮かぶガラス張りの球の形をしたアップルストアです。ちょうどiPhone16が発売されたばかりということもあり、観光客で賑わっていました。

(16) オーチャードロード

訪問日：9月21日

- ・伊勢丹・高島屋等のデパートが立ち並ぶ商業地域です。高級ブランドの他にもスシローやニトリといった馴染みのある看板が多く、頻繁に日本語が聞こえました。
- ・F1の時期だったため、レーサーの服やヘルメット、レゴのF1カー等のF1関連の出店が並んでいました。

(17) シンガポール海洋博物館

訪問日：9月21日

- ・MRT南北線の東の終点、マリーナサウスピア駅から歩いてすぐです。漁村から始まる港町としてのシンガポールの歴史について展示しています。コンテナの実物や貨物船・灯台の模型、操舵体験等、小さいながら見どころ多い施設でした。
- ・国際的な物流網におけるシンガポールの存在感の高さと、貿易・ビジネスのハブとして繁栄を掴んだシンガポールにとってシーレーンの安寧が死活的に重要であることを感じ、防衛省のワークショップで教わったシーレーンの安全保障上の重要性を再認識することができました。
- ・併設の売店の物価は安く、タイガービールとプリンクルズを買って屋上から港を眺めて乾杯しました。

(18) シンガポール植物園

訪問日：9月22日

- ・京都府立植物園の気楽さ、新宿御苑の解放感、ガンガラーの谷（沖縄）に近い植生を味わうことができるシンガポール唯一の世界遺産（文化）です。
- ・芝生の映える手入れの行き届いた園内は散歩にもってこいです。4時間かけても回りきれませんでした。
- ・最寄駅のうちNapier駅（トムソン東海岸線）側に買い物や食事に向けた街はありません。園内のレストランやお土産物は観光地価格です（普通の価格帯の自販機はあります）。レストランでは非常に健康志向の強いメニューが食べられました。

（19）Art Science Museum

訪問日：9月22日

- ・マリーナベイサンズの袂にある、睡蓮の池に囲まれたガラス張りの美術館です。
- ・土地柄入館料も物販も高額ですが、無料で入れるエリアもあります。

（20）F1コース

訪問日：9月22日

- ・シンガポールでのF1は、ベイエリアにてナイトレース⁴³の形式で行われます。有料エリアの外から車両を拝むことはできませんが、マーライオン公園付近の橋の下・その横のデッキでは、市街地を時速300kmで走り抜ける爆音を間近で味わうことができました。ゴール直後の派手な花火はマリーナベイサンズ付近から打ち上がるため、対岸のマーライオン公園からよく見えました。
- ・阪神タイガースが読売ジャイアンツとの天王山初戦を制したのを見届けてF1観客の喧騒と花火をつまみに飲むタイガービールは格別でした。

（21）館會和慶

訪問日：9月22日

- ・テロックエア通りにあるシンガポール最古の中国寺院跡で、シンガポールが小さな港町だった時代から中国人商人が航海の安全を祈った場所です。
- ・街中の道から一歩入った先にボツンと寺院風建築が現れる様子は頂法寺六角堂を想起させます。

（22）ゲイラン

訪問日：9月23日

- ・伝統的な街並みが残る歓楽街で、新宿歌舞伎町に相当するとも言われることもあります。市街地を疾走する二階建てバスの車窓の景色は滞在期間随一でした。
- ・道路沿いの商店街には、OPPO等スマホメーカーの直売店やレストラン・ホーカー、農産物売場等があ

⁴³ 欧米で視聴しやすい時間に放映するためです。

り、雑多に何でも置いてあるという印象を受けました。

- ・インド人建設業者が多く、ダンプカーをはじめとする工事車両や街中でよく見かける土木作業員を運搬するトラック等が路肩に多数停めてありました。
- ・治安に関して否定的な意見もあります⁴⁴が、歌舞伎町や池袋と同程度であるとの印象を受けました。

(23) イーシュン

訪問日：9月24日

- ・シンガポール北部に位置し、マレーシアにほど近い街です。
- ・治安の悪さが一部で取り沙汰されていましたが、駅周辺は綺麗で、柄の悪い人もいませんでした。
- ・街の発展度合いは、福岡出身の同行者によれば北九州市レベルで、私には長田区くらいに思えました。
- ・駅前商業施設がイオンモール並みに充実しており、イーシュン地区内で生活を完結させることができそうでした。商業施設直結のバスターミナルは、ひっきりなしに訪れる路線バスで混雑していました。
- ・商業施設地下のドン・キホーテに入ると日本から輸入されたと思われる馴染みのある商品ばかりで、品揃えも豊富でした。「なんでもそろって便利なお店」⁴⁵というキャッチコピーを初めて体感しました。特にお造りと寿司が置かれていたことに感動を覚えました。駅前ベンチでサッポロビールとサーモン炙り寿司を堪能して、望郷の念は一旦引いてあと1ヶ月滞在しても良いとさえ思えました。

(24) ラッフルズ像

訪問日：9月26日

- ・白人として初めてシンガポール島を発見したスタンフォード・ラッフルズの像です。
- ・ポートキーからシンガポール川を渡った先にあり、クラークキーからも近いです。
- ・イギリス領シンガポールの父ラッフルズがビル街を背景に立つ姿は一見の価値ありです。

(25) Buddha Tooth Relic Temple

訪問日：9月28日

- ・チャイナタウンの中心に位置する唐朝期の建築をイメージした仏教寺院兼博物館です。
- ・金堂の壁面を埋め尽くす小さな仏像に囲まれた本尊は圧巻でした。
- ・夜は色鮮やかな提灯に彩られます。

7. 最後に

⁴⁴ いわゆる赤線区域に相当するエリアがあること等を理由とします。

⁴⁵ ドン・キホーテのテーマソングは元アルバイトの方が作曲されたそうです（世界の民謡・童謡「ドン・キホーテの歌 歌詞と解説」 (<https://www.worldfolksong.com/popular/cm/don-quiote.html>))。

3週間は終わってみればあっという間の夢のような時間でした。幾重にも守られたこの機会に、実務に触れて法曹としての活動のイメージや目標とする弁護士像が具体化しただけでなく、新しい環境に身を置くことへの免疫がついたと思います。

エクスターンに向けて事務所と折衝を重ねてくださった神大ローの先生方、迅速に手続を進めていただいた教務の方々、3週間にわたり温かく迎え入れてくださったFLAの方々、費用負担を快諾してくれた家族、心の支え・学びの支えとなってくれたエクスターン（インターン）同期・友人、その他エクスターン関係者各位に御礼申し上げます。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。